



# 市制施行70周年 記念応援団をご紹介します



**佐藤 和馬さん**  
プロサッカー選手（鈴鹿  
ポイントゲッターズ）



**齊藤 隆成さん**  
プロサッカー選手（F C  
大阪）



**奥村 幸大さん**  
競泳選手（2004年アテネ  
オリンピック銅メダリス  
ト）



**中川 皓太さん**  
プロ野球選手（読売ジャ  
イアンツ）



**高繁 勝彦さん**  
アドベンチャー・ラン  
ナー



**清水 哲さん**  
P L 学園野球部OB



**宮本 恒靖さん**  
ガンバ大阪監督



**錦戸 眞幸さん**  
錦戸部屋親方（元関脇水  
戸泉）



**中村 順司さん**  
元P L 学園野球部監督

本市にゆかりのある著名人によつて結成された「市制施行70周年記念応援団」の皆さんをご紹介します。今月は、スポーツの分野で活躍されている方々を中心に紹介します。

## 11月30日（月）、2020年度後期 連続テレビ小説「おちよん」放送開始！

### ■モデルは富田林市出身の大女優、浪花 千栄子さん

2020年（令和2年）秋より始まるNHK連続テレビ小説「おちよん」は、女優の道を生き抜き、「大阪のお母さん」と呼ばれるまでになった、一人の女性の物語。杉咲花さんが演じるヒロインのモデルは、本市（東板持）出身の大女優、浪花 千栄子さんです。

南河内の貧しい家に生まれた少女が、女優の道をめざす、大阪のど真ん中を舞台にした、笑って、泣けて、人情あふれる、波乱万丈の物語。

本市は、「おちよん」を応援します。

#### 放送開始日

2020年11月30日（月）

午前8時＜総合＞

午前7時30分＜BS4K・BSプレミアム＞など

市制施行70周年記念事業

市長と語る

# ふれあい座談会 富田林市の農業を創造する会へ

「富田林市の農業を創造する会」とは、希望の持てる農業の創造と美しい活力のある農村の実現のため農業の未来について考え研究・行動するため、平成27年に設立されました。個人・地域のブランド化、販路開拓、生産流通コストの削減・経営分析、雇用・担い手・後継者育成などを目標に、会員の潜在能力を相互に発揮し合い農業が直面する課題を克服し未来ある農業を創造するため活動しております。

―新型コロナウイルスの影響で農業にはどのような影響がありましたか。

泉州の水ナスと異なり、飲食店向けではなく、一般家庭向けに主に栽培・出荷しているため、ナスの栽培・出荷への大きな影響はなかったのですが、従業員のみならず、従業員の家族も新型コロナウイルスに感染しないか心配でした。コロナクラスターを避けるため、3密になりにくいグループ観光農園が逆に流行し、混雑しすぎて入園を規制することもありました。今までは、シンプルに入園者を集めるだけでよかったのですが、今後は、どこまでクラスターケアをする必要があるかを考えな



がら、どこまでの入園者数なら受け入れることができるとかを考える必要があると感じました。

コロナ禍の影響で家庭菜園をする人が増えて、農業を面白いと感じている人も増えていると感じていますので、農業と何かを組み合



わせてPRしていくなど、コロナ終息後のことも、今のうちからいろいろ考えて準備していくことが大事だと思います。

―富田林の農業の現状と課題について。

農業を担う「人」の育成は重要課題です。大阪府とJAが中心となって行っているアグリアカデミアでも、富田林市から来られている方もたくさんいます。

しかし、新規就農者の中には、数年で独立する人もいますが、数年で農業を辞めてしまう人も多いのも現状です。新規就農者を集めることも重要ですが、それと並行して現役農家の子どもたちに農家を継いでもらえるような仕組みも必要だと思っています。

さらに農業を行う「場所」の確保も重要課題です。特に農地の集約化が大切です。10年後、20年後を見据

えて、若い農家のためにも農地の集約化がしやすい環境にする必要があります。従来の生産以外にも、市域全体での出荷量の確保（地域ブランドの維持）、流通・販売経路の拡大や後継者の育成、耕作放棄地の増加（農空間の保全）などさまざまな課題があります。さらに近年は気候変動の影響もあり、台風などの災害も多く農業の取り巻く環境は厳しくなっています。

一方で、インバウンドのニーズも変化している中で、都市部ではなく、田舎（里山）の受け皿も必要です。自然をキーワードにまだまだ伸びしろがある分野だと思っています。

―今後の展望について、お聞かせください。  
市内東西の文化交流の一ツとして、農業に親しみを持ってもらおうなど、まずは



市民に富田林の農業を知っていただくことが大切だと思います。

例えば、農業祭以外にも大きなイベントが必要だと思います。10年後、20年後を見据えて、同じ20代の仲間を増やしていくことも必要です。

今は、農業という職業選択をする、周りから驚かれるので、そのイメージを変えていく必要があります。今の子どもたちが将来、農業をやりたいと思ってもらえるような環境にしていきたいと思っています。

その一環として、子どもたちに農業体験をさせることは大切なことですので、今後協力していきたいと思っています。